

平成 28 年度事業実績

1 稼働状況 ※プラン 11 ページ参照

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	27→28 増減
総延入院患者数	139,875 人	145,697 人	140,921 人	▲4,776 人
新入院患者数	11,857 人	13,079 人	12,906 人	▲173 人
全病床利用率	73.0%	75.8%	73.5%	▲2.3%
一般病床利用率	78.5%	83.5%	80.2%	▲3.3%
平均在院日数	10.8 日	10.1 日	9.9 日	▲0.2 日
総外来患者数	215,528 人	220,796 人	218,525 人	▲2,271 人
新外来患者数	20,438 人	22,268 人	21,384 人	▲884 人
入院患者 1 人 1 日当り診療単価	61,209 円	68,495 円	70,487 円	1,992 円
外来患者 1 人 1 日当り診療単価	11,897 円	13,055 円	13,734 円	679 円
手術件数	4,198 件	4,821 件	4,797 件	▲24 件
分娩件数	853 件	940 件	955 件	15 件
重症度、医療・看護必要度	18.4%	22.3%	29.6%	7.3%
紹介率	64.9%	73.3%	78.0%	4.7%
逆紹介率	82.0%	74.8%	77.6%	2.8%

○患者数については入院・外来ともに前年度を下回った。主な理由として、特に入院患者数については、平均在院日数が短縮する一方で、新入院患者数が減少したことなどにより、空いたベッドを補うまで患者を確保できなかった。

○入院患者 1 人 1 日当り診療単価は、手術をはじめとして、提供している医療が高度化していることや、救命救急センターに入院する患者数の増などにより加算対象患者が増え、入院・外来ともに前年度を上回った。

○手術件数については前年度を下回ったが、引き続き高い水準の件数を維持している。

○分娩件数については、大幅に増加した前年度を更に上回る件数であった。

○重症度、医療・看護必要度については、平成 28 年度の診療報酬改定により基準が厳格化されたが、29.6%となり、7 対 1 入院基本料を確保することができた。

2 救命救急センターの受入状況 ※プラン 11 ページ参照

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	27→28 増減
救急患者受入れ数	15,975 人	15,078 人	14,524 人	▲554 人
うち入院患者数	5,261 人	5,326 人	5,189 人	▲137 人
救急車搬送患者受入れ数	6,410 人	5,721 人	5,722 人	1 人

○救急患者全体については、救急隊からの依頼件数の減等に伴い、前年度よりも受入れが減少した。

○そのうち救急車で搬送された患者の受入れ数は、ほぼ前年度並みであった。

3 数値目標を設定した項目に係る実績

【戦略 I】 これからのニーズを踏まえた医療提供体制の充実 ※プラン 21 ページ参照

	平成 27 年度	平成 28 年度	27→28 増減	平成 29 年度 (目標)	平成 32 年度 (目標)
手術件数(手術センター分)	4,821 件	4,797 件	▲24 件	4,900 件	5,000 件
分娩件数	940 件	955 件	15 件	960 件	990 件
臨床研修医受入れ数	29 人	29 人	0 人	32 人	34 人
救急患者受入れ数(再掲)	15,078 人	14,524 人	▲554 人	15,200 人	15,500 人
救急車搬送患者受入れ数(再掲)	5,721 人	5,722 人	1 人	5,900 人	6,200 人
救命コール受入れ数	367 件	441 件	74 件	420 件	480 件

○手術件数については、診療科毎の利用率の分析等を行った上で手術枠の見直し等を行い、概ね前年度と同水準を維持した。

○分娩件数については、効率的な病棟運営に努めたことなどにより、前年度実績を上回った。

○救命コール(重症度・緊急度が高いと判断される場合、救急隊の出動要請と同時に、消防本部から個々の医療機関に対し収容を依頼するもの)については、積極的な受入れに努めたことにより、件数が大幅に増加した。

【戦略Ⅱ】 地域の医療機関から信頼され、市民に選ばれる病院づくり ※プラン 23 ページ参照

	平成 27 年度	平成 28 年度	27→28 増減	平成 29 年度 (目標)	平成 32 年度 (目標)
紹介率(再掲)	73.3%	78.0%	4.7%	76.5%	78.0%
逆紹介率(再掲)	74.8%	77.6%	2.8%	76.5%	78.0%
紹介元医療機関数	1,429 件	1,470 件	41 件	1,420 件	1,450 件
紹介先医療機関数	1,504 件	1,510 件	6 件	1,510 件	1,540 件
病院・開業医からの救急患者 受入応需率	74.9%	76.5%	1.6%	80.0%	80.0%

○紹介率については、精密健診患者数の増加等により、前年度を上回った。

○紹介元及び紹介先医療機関数については、地域の医療機関への訪問や懇話会の開催等により、いずれも前年度を上回った。

○病院・開業医からの救急患者受入応需率については、依頼件数及び受入数のいずれも前年度より減少したが、応需率は前年度を上回った。

【戦略Ⅲ】 市立病院を必要とする患者さんを速やかに受け入れる体制の構築 ※プラン 24 ページ参照

	平成 27 年度	平成 28 年度	27→28 増減	平成 29 年度 (目標)	平成 32 年度 (目標)
1 日当り入院患者数	398 人	386 人	▲12 人	414 人	428 人
月平均新入院患者数	1,090 人	1,076 人	▲14 人	1,130 人	1,220 人
一般病床利用率(再掲)	83.5%	80.2%	▲3.3%	85.4%	88.4%
1 日当り外来患者数	909 人	899 人	▲10 人	900 人	900 人
月平均新外来患者数	1,856 人	1,782 人	▲74 人	1,850 人	1,910 人

○月平均新入院患者数については、前年度を下回った主な診療科は耳鼻いんこう科▲9 人、神経内科▲7 人、外科▲6 人であった。主な要因としては、診療体制の変更や紹介患者数の減少などによるものであった。

○月平均新外来患者数については、前年度を下回った主な診療科は耳鼻いんこう科▲44 人、消化器内科▲15 人、脳神経外科▲12 人であった。主な要因としては、紹介患者数の減少や救急患者数の減少などによるものであった。

【戦略Ⅳ】 収益アップ・コスト縮減両面に亘る経営改善策の徹底 ※プラン 25 ページ参照

	平成 27 年度	平成 28 年度	27→28 増減	平成 29 年度 (目標)	平成 32 年度 (目標)
経常収支比率	96.4%	91.9%	▲4.5%	91.4%	94.4%
医業収支比率	91.8%	87.5%	▲4.3%	87.6%	91.0%
職員給与費対医業収益比率	54.8%	58.2%	3.4%	57.4%	56.6%
100 床当り職員数	163 人	170 人	7 人	170 人	172 人
診療材料費対医業収益比率	11.1%	11.6%	0.5%	11.8%	11.7%
薬品費対医業収益比率	7.3%	7.8%	0.5%	8.2%	8.2%
経費対医業収益比率	21.0%	22.0%	1.0%	22.2%	21.6%
後発医薬品使用割合	73.0%	77.0%	4.0%	80.0%	80.0%

- 収益増が小幅に留まる一方、職員数増等に伴う職員給与費の増加をはじめとして、各種費用が増となったことから、経常収支比率、医業収支比率のいずれも前年度より数値が悪化するとともに、職員給与費、診療材料費、薬品費、経費の対医業収益比率もすべて上昇した。
- 後発医薬品の積極的な採用に努めたことから、後発医薬品使用割合は前年度より上昇した。